

## 【インタビュー項目】

対象：回答のあった 37 自治体の内、派遣有と回答した 7 自治体

形式：1 自治体（1～2 名活動した DPAT 隊員を含める）に対し質問者 3 名程度

時間：全部で 30 分程度

## 自治体

DPAT 派遣を決断した経緯と、判断した者。また、派遣終了を決断した経緯と、判断した者。
新興感染症対応における DPAT 活動の終了の目安はいつと考えるか。今回は妥当だったか。
派遣依頼した病院の選定方法、優先順位。
依頼した具体的な活動内容。
隊員の感染対策能力の確認方法。
派遣後の隊員に対して、新型コロナウイルス感染症に対する PCR や補償の提示といったフォローアップ体制はあるか。
他支援チームでなく DPAT だからできた事は何か。
平時の対応として、（ICT 等感染症専門家主催による）新型コロナウイルスを含む感染症対策のトレーニングや訓練を望むか。
DPAT 派遣に関して、DPAT 事務局に求める役割は何か。

## 隊員

依頼された具体的な活動内容。
実際に活動できた内容を具体的に。
新興感染症対応における DPAT 活動の終了の目安はいつと考えるか。今回は妥当だったか。
行く前に不安だと感じた内容と行った後に不安だと感じた内容を具体的に。
ICD/ICN がいない場合、活動前に感染対策の知識はどこから得たのか。
院内で活動した場合、ゾーニングは誰が行ったか。
感染対策は元々病院などで習っていたか。
派遣後、自治体により PCR や補償について提示はされたか。
派遣後、所属病院で PCR や勤務調整といったフォローアップはされたか。
自治体から、どのような補償があると安心して活動できるか。
他支援チームでなく DPAT だからできた事は何か。
他支援チームとの連携は出来ているか。具体的に連携で困ったことがあるか。
平時の対応として、（ICT 等感染症専門家主催による）新型コロナウイルスを含む感染症対策のトレーニングや訓練を望むか。